

モニタリング結果報告書
(平成27年度)

1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	神奈川県厚木市七沢516		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp/		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	H18. 4. 1～H28. 3. 31	施設所管課	県立病院課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>収支状況はA評価となったが、利用状況及び利用者の満足度がB評価であったことから、3項目評価はB評価となった。</p> <p>今後は再整備を踏まえた適切な人員配置と業務の効率化、利用者サービスの向上が求められる。利用状況や満足度については再整備後の施設の有効利用により、改善を進めていくことができると考えている。</p>	
<p><各項目の詳細説明></p> <p>【管理運営等の状況】 再整備工事をを行う中で、定員減に向けた受入数の制限などもある中で利用状況にはばらつきがあるものの、概ね事業計画等の内容どおり事業を実施している。また「さがみロボット産業特区」における実証実験機関として、引き続き県施策と連携を図っている。</p> <p>【利用状況】 ・福祉施設については、施設ごとにはばらつきが見られるものの、概ね前年度並みの利用者数であったが、目標値を引き上げた結果として評価が下がった面もある。 ・病院については、神奈川リハ病院の入院については目標達成はできなかったが患者数が増加した。七沢病院の入院については統合に向けて稼働病床数を削減したため、利用者数は減少したが、目標は達成できた。 ・外来については両病院とも前年度より減少した。 ・再整備の途中ということもあり、判断が難しいが、実績を踏まえてB評価とした（S評価が3区分、B評価が6区分、C評価が3区分）。</p> <p>【利用者の満足度】 施設により10月～1月のいずれかで実施した。A評価が2施設3区分、B評価が2施設、C評価が1施設だったためB評価とした。</p> <p>【収支状況】一部施設における利用者増による収入増及び室料差額の収益増並びに管理経費の執行抑制による支出減等により収支比率が100.51%となったためA評価となった。</p> <p>【苦情・要望等】 職員対応等に対して苦情・要望が寄せられたが、概ね利用者理解を得られるような対応をとっていると考えている。</p> <p>【事故・不祥事等】 平成27年10月31日16時30分頃、七沢学園生活支援員が利用者に対して怒鳴る・叩くなどの虐待に相当する不適切な行為を行った。障害福祉課の監査等と並行して当課としても経過の報告を求め、平成28年1月28日に随時モニタリングを実施した。同年2月22日付けで改善計画の提出を求め、3月31日付けで計画を承認した。指定管理者は計画に基づき再発防止に努めている。</p> <p>【労働環境の確保に係る取組状況】 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p>	

3項目評価	S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう
B	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	—	—
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	平成28年1月28日	平成27年10月31日に七沢学園で発生した職員による利用者虐待事案につき、当該行為を防止することができず、利用者等に多大な迷惑を及ぼした点において、基本協定書に定める管理業務の条件を満たしていなかったと認められた。
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	○ 有 ・ 無	指導・改善勧告等の内容
		業務の改善計画の提出と、計画の実施による再発の防止及び指定管理業務の改善を求めた。

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>リハセンターの一体的な運営の推進 障害を持つ方の早期社会復帰を目的に、病院と福祉施設の連携のもと、医学的・職業的・社会的リハビリテーションの各分野を総合的かつ有機的に実施し、 ①民間の病院や福祉施設では対応が難しい重度・重複障害を持つ方へのリハビリテーションと生活・自立支援、 ②リハビリテーションに関する臨床、実践的な医学的・工学的・社会福祉学的領域を基盤とする調査・研究・開発、 ③地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援などに積極的に取り組み、神奈川県が実施するリハビリテーション事業の中心的、指導的な役割を果たす。</p>	<p>・病院と福祉施設、地域支援センターの連携により、病院での医療リハビリテーションから福祉施設での社会リハビリテーションをセットにして社会復帰に向けた支援を行うとともに、病院・福祉で培ったノウハウを県内の市町村、居宅介護支援事業所、ケアマネなどの地域資源に還元し、障害者が地域で自立した生活をしていけるよう、地域との連携を図った。</p> <p>・長年にわたるリハビリテーションに関するノウハウの蓄積、豊富な経験により、多種多様な疾患、障害に対応した。また、多診療科による総合的な診療が可能であることから、身体障害、知的障害者など、障害者が持つ様々な合併症に対応した。医師・看護師・リハスタッフが障害者（知的・身障）の合併症への専門的理解、知識、経験を持ち、タイムリーな医療提供を行った。</p>	
<p>福祉施設の機能充実 (1) 七沢学園 ア 総合性・高度専門性の発揮 知的障害児（者）を対象に、保護及び更生に必要な医療と医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川県リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰（職業や家庭生活）への手助けをするとともに、在宅障害者の地域生活を支援する。 医学的課題・行動的課題（強度行動障害）がある方や、民間施設では受入が困難な難治性てんかん（投薬調整・管理）や内科的医療管理（腎不全、心不全、胃ろう、糖尿病等）などを併せ持つ医療重度者の受入を行なう。 イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。 ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮 ・知的障害児者に対し、病院と連携して難治性てんかんや胃ろう等医療的課題のある方の受入や、強度行動障害、発達障害等を持つ方への支援を行い、行動障害の軽減、環境への適応性の向上に取り組み、地域生活に向けた支援を行った。 ・地域生活に向けた取組により、年間実績として児童は退所者13人中10人（76.9%）が、また成人は退所者24人中17名（70.8%）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができ、地域生活への移行への支援という役割を果たすことが出来た。 ・他施設では受け入れが困難な医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。（実5名、一日平均5人入所） ・強度行動障害者への対応は、県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査などに取り組むとともに、神奈川県リハ病院と連携しSST手法（SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練）等を実施している。（強度行動障害児：実1人（一日平均1.0人）、強度行動障害者：実6人（一日平均6.0人受入）） ・知的障害児童に対して、療育期間1ヶ月～6ヶ月とした集中療育の支援プログラムにより、直接的なケア（生活リズムの立てなおし、排泄訓練、体重コントロール、身辺処理の自立、コミュニケーションの拡大）の実施、間接的なケア（母子分離、集団適応能力観察、心理評価、行動観察・評価）の実施、付帯的目的（レスパイト、一時的な養護性、長期施設待機）の実施、養育環境の整備、不登校の改善、行動改善を実施した。（5枠を活用し年間7人を受け入れた。） ・高次脳機能障害のある児童を知的障害施設の七沢学園の家族短期入所事業で受入れを行っていたが、平成27年度は再整備工事の既存棟解体による影響で実施場所が不足することから受入れしていない。</p>	<p>・再整備工事の影響により一部受け入れを行えなかったケースもあるものの、入所者退所後の地域生活への移行に向けて支援を行い、一定の成果をあげた。その他医療重度者の受入や知的障害児に対する集中療育のプログラム等前年度と同規模で実施した。</p>

	<p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護・虐待防止の視点に立ち、事故防止に向けて、改善計画を作成し、①職員の資質向上のため研修の充実、②職員間の情報の共有化の促進のため、虐待防止委員会の機能充実、③管理監督者からの指導の強化として、チェック機能の強化や現場職員との個別面接などコミュニケーションの充実④利用者支援のため、第三者委員やオンブズマンとの個別面接の実施、⑤虐待防止マニュアルの見直しに取り組んでいる。 ・苦情解決への取組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。また、苦情解決連絡会を開催した。(福祉施設共通) ・よりよい施設運営に向けて利用者満足度調査を実施した。(福祉施設共通) ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。(福祉施設共通) ・サービスの質の確保・向上のため、社会福祉施設サービス自己評価会議を設置し、各福祉施設が提供する福祉サービスの質について自己評価を行った。 ・内部監査を実施し、サービス関係、経理処理関係の監査を行った。27年度は重点項目として物品管理事務、契約事務及び備品管理事務について確認を行った。(各所属共通) ウ 効果的・効率的な運営 <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所等の訪問を行い、利用率確保に努めた。 ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。(各所属共通) 	
<p>福祉施設の機能充実 (2) 七沢療育園</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重度心身障害児・者を対象とし、神奈川リハビリテーション病院との一体的な運営により、保護・治療・日常生活の指導と医学的リハビリテーションを提供し、障害の軽減や回復を図るとともに、在宅重症心身障害児者とその家族を支援する。</p> <p>全身性の医療管理と看護が必要な超・準超重症心身障害児者の受け入れや、在宅重症心身障害児者を支援するための期限を設けた利用(中期入所(※)5床、短期入所1床)を行う。(※中期入所:期間が決められた回転型の入所機能による地域生活者支援として実施)</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <p>個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <p>採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の削減対策に取り組む。</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行うとともに、人工呼吸器や経管栄養法等全身の管理が必要な超・準超重症心身障害児者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行った。 ・40床のうち8床を中短期入所枠とし、在宅重心児者の在宅生活の継続や課題解決に向けた支援を展開している。地域のニーズは高く、期待される役割は大きい。(年間2,471人、一日平均6.8人の利用があった。) ・超・準超重症心身障害児者の受入については、中期入所を含め、最大17.7人(計画10人)の受入を行い支援した。在宅からの中短期入所者の低年齢化、医療重度化が進み、バイタルサインを計測するモニターなどの医療用機器が必須となっており、レンタル等での対応を行っている。また、入所前に地域支援班と看護師が家庭訪問を行い、事前に情報収集、スタッフ間で情報の共有化等の事前準備を行い、保護者、利用者、スタッフにとっても安心、安全な入所につなげている。 ・県の委託により重症心身障害児者の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所、特別支援校などを訪問した。(年間49回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は前年度より若干増加した。重度の長期入所者に加え、中短期入所により在宅重心児者の支援を積極的に行った。

	<p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。 ・施設利用者の医療重度化に対応するため、人工呼吸器の取扱研修などを行った。 <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている（「再掲 年間49回実施」） ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。（年間延べ890人の利用） 	
<p>福祉施設の機能充実</p> <p>(3) 七沢更生ライトホーム</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>肢体不自由者及び視覚障害者を対象に、更生に必要な医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰（職業や家庭生活）への手助けをするとともに、在宅障害者の自立を支援する。</p> <p>肢体不自由者については、脊髄損傷者や高次脳機能障害を持つ重度の肢体不自由者等を対象とし、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、就労、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるよう努め、障害者の社会復帰に向けた支援を行なう。</p> <p>中途視覚障害者については、糖尿病等の医療管理を要する者、高次脳機能障害を併せ持つ者やロービジョン（低視覚障害）者等を対象とし、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツ、職業復帰に向けた支援など地域での在宅生活に向けての支援を行う。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <p>個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <p>採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>・【身障者の利用状況】</p> <p>病院を退院したものの自宅での生活が困難な頸髄障害、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続き医療的リハビリテーションを行うとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活（家庭生活）が営めるよう支援を行った。</p> <p>年間退所者46人（障害別内訳 脊損12人、脳外傷6人、脳血管障害26人、その他神経疾患等2人）（通所者退所はなし）</p> <p>・【視覚障害者の利用状況】</p> <p>疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行った。</p> <p>年間退所者13人（通所者10人退所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活に向けた取組により、肢体不自由者については、年間退所者46名のうち44名（95.7%）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることが出来た。 ・視覚障害者については、年間退所者13名のうち12名（92.3%）が家庭に復帰することが出来た。 <ul style="list-style-type: none"> ・また、入院中に賃貸住宅の期限切れなどで住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行った。（年間の単身者の地域移行：肢体不自由者19名、視覚障害者5名） ・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン（低視覚障害）者の相談・技術支援等を行った。 <p>・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド（チームアトム）をはじめ、心の体温計（PST株式会社）、盲導犬ロボット（日本精工）等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。このうち、盲導犬ロボットに対しては視覚障害者の特性などを考慮した専門的評価、アドバイスをを行うなど、県が進めている産業育成に貢献した。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。 <p>ウ 効果的・効率的な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。 ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。 	<p>・短期利用者数が減少したものの、前年度と同様に入所者退所後の地域生活への移行に向けて支援を行い、一定の成果をあげた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。 ・国立相模原病院の外来通院患者及び家族を対象に、国立相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホームの合同で、「生活訓練体験会」を実施した。 ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行った。 	
<p>病院の機能充実 (1) 神奈川リハビリテーション病院 ア 総合性・高度専門性の発揮 民間医療機関での対応が難しい脊髄損傷、脳外傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患や神経疾患等の重度・重複障害を持つ方の早期社会復帰を可能とする 総合的かつ 高度専門的リハビリテーション医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮 ・脊髄損傷、外傷性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症（手術を含む）、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行うとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行うとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行った。 ・退院患者のうちの主な疾患患者数 脊髄障害：63人、高次脳機能障害：223人、小児神経疾患：111人、その他、変形性股関節症他：837人 ・退院患者のうち89.2%が自宅退院出来た。 ・就労支援について、就職・復職者は、年間実績では新規就労19名、復職51名であった。 ・総合療育相談センター（身体障害者更生相談所）が行う身体障害者の補装具作成に伴う評価判定の協力として、医師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどが関わり、電動車いす（対応総数44件・評価判定9件）と重度障害者意思伝達装置（対応総数1件・評価判定0件）の評価判定を行った。 ・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症（術中を含む）、小児脳損傷、脳血管障害に対応したクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。 <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 ・日本医療機能評価機構の認定病院として、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取り組みを図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。（両病院共通） ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。（両病院共通） ・入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施した。（両病院共通） ・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。（両病院共通） ・医療安全対策の取組みとして、離院・離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った。（両病院共通） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率向上に取り組み、前年度と比べて利用率が向上したほか、退院患者の自宅復帰や退院後の就労・復職支援等について前年度と同様に実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・リハセンター全体で、大規模震災を想定した総合防災訓練を実施し、大災害時の対応方法等の検証を行った。(各所属共通) ウ 効果的・効率的な運営 ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。 ①患者の確保に向け、近隣病院への入院案内(申込書)の発送、紹介実績がある病院のソーシャルワーカー等を対象とした説明会を開催し、当院の機能と対象患者、入院手続きの説明を行った。(ソーシャルワーカーが交代すると当院を理解していないため、紹介患者が少なくなるためである。) ②外部からの新規入院申込みに対して特段の理由がない限り受け入れを行った。 ③入院日調整を随時行い入院までの待機期間の短縮を行った。 ④ドクターtoドクターによる紹介患者の早期受け入れを行った。 ⑤当病院のソーシャルワーカーの事前患者情報収集の強化、急性期病院に入院中から、患者情報を収集し、病態、生活環境などを把握し、患者受入手続きの円滑化を図る。 ⑥ベッドコントロールを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの高い小児科のベッド拡大 ・診療科の枠を超えたベッド利用の推進 ・在宅難病患者の緊急一時入院の協力 ・他科の病棟の活用による利用率向上 ・看護師の病棟間支援、柔軟な配置による他科病棟への業務支援 ⑦PMF(patient flow management)の導入によって、入院後の患者への看護の提供について効率化を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報誌による広報活動の充実を図った。(両病院共通) ・薬品については、県立病院全体での入札による単価契約に基づき購入するなど、費用の削減に努めた。(両病院共通) ・検査試薬、診療材料は、事業団2病院で入札による単価契約を結び、費用の削減に努めた。また、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。(両病院共通) ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態の導入を行った。(両病院共通) 	
<p>病院の機能充実 (2) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター</p> <p>ア 総合性・高度専門性の発揮 脳卒中のリハビリテーション専門病院として、脳卒中の予防から発症後のリハビリテーション、退院後の社会(家庭)復帰までの一貫した包括的・先進的な医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。</p> <p>イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策 個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。</p> <p>ウ 効果的・効率的な運営 採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。</p>	<p>ア 総合性・高度専門性の発揮</p> <p>・生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行うとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行った。</p> <p>・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行うとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行った。</p> <p>・年間退院患者425人のうち313人(73.6%)が自宅退院できた。</p> <p>・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。</p>	<p>・病院の再整備に向けた稼働病床数の減により利用率は高水準で推移した。また、前年度に引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取り組みを実施した。</p>

・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有することで入院期間の短縮やチーム医療の徹底を図った。

《クリニカルパスの種類》

- ①脳卒中リハビリテーションクリニカルパス
- ②生活習慣改善入院クリニカルパス

・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。(年間：実16人・延571人)

・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。

・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド(チームアトム)をはじめ、心の体温計(PST株式会社)等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。

さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを両病院で使用し、利用評価、事例蓄積等を行った。

特に七沢病院は、パワーアシストハンド、心の体温計については、中核となって受入れ、開発企業にフィードバックを行い産業育成に貢献した。

・県内医療機関ソーシャルワーカーを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。

・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。

・患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。

・脳卒中地域連携パスの推進として、県内14グループのうち、10つのグループに参加するなどの取組みを行った。

イ 利用者本位のサービスの提供と安全対策

・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、365日リハビリテーション訓練を実施した。

・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。

ウ 効果的・効率的な運営

・回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの施設基準を算定することにより、より重度の患者への対応を行うとともに収益増を図っている。

回復期リハⅡ：1811点→回復期リハⅠ：2025点

①入院審査会を毎日開催し、特段の理由がない限り受け入れを行った。

②ドクターtoドクターによる紹介患者の早期受け入れを行った。

③入院患者確保対策(54病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等)

④患者の確保に向け、県内脳卒中連携パスの会議に参加した。

⑤ソーシャルワーカーと事務による病院訪問、パンフレット送付を行った。

⑥入院コーディネーターの充実により、入退院の円滑化を図った。

⑦査定減対策の実施 査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバックした。

⑧未収金対策を実施した。

・脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行った。

	<p>・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。</p>	
<p>地域支援機能 総合性・高度専門性の発揮 県域のリハセンターとして市町村が実施する地域リハビリテーションシステムの基盤整備事業の推進を図るための支援や技術援助を行い、障害を持つ方々の地域での自立生活を支えていく。 また、県の指定する「神奈川県リハビリテーション支援センター」として、全県的な立場から地域を支援するため、 ①リハビリテーション情報の収集・提供、 ②リハビリテーション専門相談、 ③リハビリテーション人材の養成等、 神奈川県下のリハビリテーションシステムの構築に取り組む。</p>	<p>・リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行うとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。 (年間実績 専門相談対応延件数496件(相談件数180件)、専門研修25項目・実998人、延1,256人受講)</p> <p>・県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行うとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。</p> <p>・神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会の開催 地域支援ネットワークの充実を図った。 ・高次脳機能障害相談支援コーディネーターの配置により、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱にした事業を実施した。 ・年間実績 依頼元件数261件(家族本人118件、医療機関73件、地域相談窓口40件、介護保険関係機関13件、市町村他17件) ・政令指定都市との連携や自立支援協議会との連携、当事者団体との連携を行った。</p> <p>・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。</p> <p>・かながわ地域リハ支援連絡会を開催した。県内の地域リハを推進する、当リハセンターと横浜市総合リハセンター、川崎市北部リハセンター、れいんぼう川崎、相模原市による定例の情報交換会で、相互の地域で自宅復帰した患者の情報共有や福祉サービスの調整ができる事を目的とする。</p> <p>・3月に一般県民等に向けたかながわりハビリテーション・ケアフォーラムを開催し、特別講演とシンポジウムを行った。 特別講演「自助・互助を促進する自治体・保健師活動とリハビリテーション」、シンポジウム「介護予防・日常生活支援総合事業とリハビリテーション」</p> <p>・ホームページの情報を充実するとともに、facebookを開設し、タイムリーに地域専門職への情報発信できるようにした。また「地域支援センターだより(広報誌)」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。</p>	<p>・前年度と同様に、地域リハビリテーションシステムの構築のための取組みを継続して実施した。また、前年度に引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。</p>
<p>研究機能 総合性・高度専門性の発揮 医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし、医学的・工学的・社会福祉学的領域において、関係機関と連携して臨床的、実践的な調査・研究・開発を展開する。</p>	<p>・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している。</p> <p>【研究テーマ】 ① 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究 ② 障害児者に関する計測的・工学的研究 ③ 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究 ④ 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究 ⑤ 障害児者の生活の質に関する研究 ⑥ ロボットによる支援リハビリテーションアプローチの研究</p>	<p>・前年度と同様に、関係機関と連携した臨床的・実証的な調査・研究等を継続して実施した。また、前年度に引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの实証試験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。</p>

	<p>【他大学等との連携した研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐賀大学医学部松尾清美准教授・株式会社岡村製作所「足駆動による短距離移動が容易な椅子の開発」 ○ 株式会社トップラン「ジグリング器の評価・開発に関する共同研究」 <p>【各種委員会における共同研究等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度国際標準共同開発事業への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度車いす座位変換機能国際標準分科会への委員参加 ・平成27年度シルバーカー国際標準分科会への委員参加 ○ 平成27年度ロボット介護機器開発・導入促進事業（基準策定・評価事業）への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度ロボット介護機器標準化委員会への委員協力 ・平成27年度屋内移動支援機器・屋外移動支援機器分科会への委員協力（委員長） ○ 平成27年度JIS原案共同作成事業への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度車いすの磁両立性JIS分科会 ○ 平成27年度安心・安全な社会形成等に資するJIS開発事業への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度JIS T9202(電動車いす) 改正に関するJIS開発委員会 ○ 温泉と未病（生活習慣病）研究に関する検討会・プロジェクト（神奈川県）への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・温泉と未病（生活習慣病予防）研究に関わる検討委員会への参加 ○ 日本障害者スキー連盟の用具研究開発への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・文科省「マルチサポート戦略事業」および内閣府「SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）」を取りまとめる日本障害者スキー連盟の障害者スポーツに関する用具開発研究（チェアスキー）への研究協力 ・「福祉機器フェスティバル」（H27.10.17）を開催した。最新福祉機器の展示・体験、リハビリテーション工学の体験（義足体験、歩行分析等）、障害者スポーツ体験など、一般企業と協力して開催し福祉機器の紹介を行い障害者の生活の向上に貢献した。 ・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、研究部では、日本精工（株）が開発するガイドンスロボットや、（株）安川電機が販売を進めている歩行支援ロボットの製品評価に関わり、県が進めている産業育成に貢献した。 <p><リハ工学関係～車いす開発に関する研究 主な学会発表></p> <p>第30回リハ工学カンファレンス発表 11月 「腹臥位姿勢による車いすの試みー第2報」 「3Dスキャナーを使用した姿勢計測・評価の試み」</p> <p style="text-align: right;">第3 1回日本義肢装具学会発表 11月 「腹臥位姿勢による車いすの試み」 「外骨格型ロボット装置歩行による擦過傷とその対応」</p>	
--	--	--

[参考：自主事業]

事業計画の提案内容	実施状況等

5. 利用状況

(1) 七沢学園（児童・入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	10,006	9,431	9,674
対前年度比		94.3%	102.6%
目標値	9,855	9,855	10,033
目標達成率	101.5%	95.7%	96.4%

目標値の設定根拠： 平成27年度は1日当たり27.4人以上（97.9%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員	28					
年間利用可能日数	366					
最大人数※	10,248	0	0	0	0	10,248
稼働率	94%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(2) 七沢学園（児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日、日中一時支援】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	665	700	658
対前年度比		105.3%	94.0%
目標値	1212	579	700
目標達成率	54.9%	120.9%	94.0%

目標値の設定根拠： 平成27年度は短期入所を延べ700人とした。

利用者数の算出方法（対象）： 平成27年度は短期入所が延べ625人及び日中一時支援が延べ33人の合計とした

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(3) 七沢学園（成人・入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	18,130	14,721	13,335
対前年度比		81.2%	90.6%
目標値	19,710	19,710	15,310
目標達成率	92.0%	74.7%	87.1%

目標値の設定根拠： 平成27年度は入所定員の縮小（60名→30名）を踏まえ1日当たり41.8人以上（72.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数/年]

						合計
定員	58					
年間利用可能日数	366					
最大人数※	21,228	0	0	0	0	21,228
稼働率	63%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(4) 七沢学園（成人・地域支援【短期入所、日中一時支援】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	1061	1164	1473
対前年度比		109.7%	126.5%
目標値	360	360	774
目標達成率	294.7%	323.3%	190.3%

目標値の設定根拠： 平成27年度は短期入所を延べ774人とした。

利用者数の算出方法（対象）： 平成27年度は短期入所を延べ1,443人及び日中一時支援を延べ30人とした。

[参考：最大利用可能人数/年]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(5) 七沢療育園（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	13,680	13,159	13,272
対前年度比		96.2%	100.9%
目標値	13,505	13,140	13,775
目標達成率	101.3%	100.1%	96.3%

目標値の設定根拠： 平成27年度は1日当たり37.6人以上（96.5%）

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員	39					
年間利用可能日数	366					
最大人数※	14,274	0	0	0	0	14,274
稼働率	92.90%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園（地域支援【短期入所、重心親子教室、療育訪問指導】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	768	917	958
対前年度比		119.4%	104.5%
目標値	258	498	518
目標達成率	297.7%	184.1%	184.9%

目標値の設定根拠： 平成27年度は短期入所を延べ500人及び重心親子教室を延べ18人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢更生ライトホーム（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	23,214	20,025	20,096
対前年度比		86.3%	100.4%
目標値	23,725	23,725	22,698
目標達成率	97.8%	84.4%	88.5%

目標値の設定根拠： 平成27年度は入所定員の縮小（70名→50名）を踏まえ1日当たり62人以上（89.9%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員	69					
年間利用可能日数	366					
最大人数※	25,254	0	0	0	0	25,254
稼働率	79.50%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(8) 七沢更生ライトホーム（地域支援【短期入所、通所、受託評価】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	1,677	2,143	1,356
対前年度比		127.8%	63.3%
目標値	2,903	2,903	3,239
目標達成率	57.8%	73.8%	41.9%

目標値の設定根拠： 平成27年度は短期入所を延べ648人、通所を肢体不自由4.5人×243日、視覚障害5人×243日、視覚障害訪問訓練2人×2日×52週、受託評価延べ75人の合計とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(9) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	78,848	80,319	87,713
対前年度比		101.9%	109.2%
目標値	91,980	91,980	94,428
目標達成率	85.7%	87.3%	92.9%

目標値の設定根拠： 平成27年度は1日当たり258人以上（92.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数/年]

						合計
定員	280					
年間利用可能日数	366					
最大人数※	102,480	0	0	0	0	102,480
稼働率	85.50%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	77,029	72,724	70,455
対前年度比		94.4%	96.9%
目標値	88,200	87,900	88,200
目標達成率	87.3%	82.7%	79.9%

目標値の設定根拠： 平成27年度は1日当たり300人以上（稼働日数294日）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数/年]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	49,644	42,733	36,741
対前年度比		86.1%	86.0%
目標値	64,240	55,115	33,306
目標達成率	77.3%	77.5%	110.3%

目標値の設定根拠： 平成27年度は1日当たり91人以上（91.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員	100					
年間利用可能日数	366					
最大人数※	36,600	0	0	0	0	36,600
稼働率	100.30%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（外来）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	7,596	6,131	5,571
対前年度比		80.7%	90.9%
目標値	14,700	14,650	8,820
目標達成率	51.7%	41.8%	63.2%

目標値の設定根拠： 平成27年度は1日当たり30人以上（稼働日数294日）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

[参考：最大利用可能人数／年]

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

(1) 七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
B	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	平成27年12月11日～22日に実施した。

[施設としての総合的評価]

質問内容 安心した生活、プライバシー保護、相談事への対応、食事、施設の印象

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 43 / 45 = 95.6%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	23	2	6	1	5	37	食事の味が薄い、量が少ない。
回答率	62.2%	5.4%	16.2%	2.7%	13.5%		
前年度の 回答数	24	5	10	4	4	47	
前年度回答率	51.1%	10.6%	21.3%	8.5%	8.5%		
回答率の 対前年度比	121.7%	50.8%	76.2%	31.8%	158.8%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容 挨拶、身だしなみ、丁寧さ・優しさ、相談しやすさ、約束を守ってもらえるか

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 43 / 45 = 95.6%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	25	5	6	2	4	42	・会話を増やしてほしい。 ・あいさつをしてくれないときがあった。
回答率	59.5%	11.9%	14.3%	4.8%	9.5%		
前年度の 回答数	23	9	9	3	3	47	
前年度回答率	48.9%	19.1%	19.1%	6.4%	6.4%		
回答率の 対前年度比	121.6%	62.2%	74.6%	74.6%	149.2%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

--

(2) 七沢療育園

評価	≪評価の目安≫ 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S : 90%以上 A : 70%以上～90%未満 B : 50%以上～70%未満 C : 50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	27年10月1日～20日に実施した。

[施設としての総合的評価]

質問内容	施設のルール、行事・活動・食事		
実施した調査の配布方法	郵送	回収数/配布数	22 / 29 = 75.9%
配布(サンプル)対象	長期利用者の家族(保護者等)		

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
施設としての総合的評価の回答数	12	5	1	0	1	19	・ボランティアの協力は大変結構だ。 ・行事は親子で楽しめた。
回答率	63.2%	26.3%	5.3%		5.3%		
前年度の回答数	11	5	2	1	1	20	
前年度回答率	55.0%	25.0%	10.0%	5.0%	5.0%		
回答率の対前年度比	114.8%	105.3%	52.6%		105.3%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容	医師、看護師、生活支援員、事務職員等		
実施した調査の配布方法	郵送	回収数/配布数	22 / 29 = 75.9%
配布(サンプル)対象	長期利用者の家族(保護者等)		

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
職員の対応状況の回答数	14	6	2	0	0	22	・安心してお任せできて感謝している。 ・よく判る園生だけでなく全員に声をかけを。
回答率	63.6%	27.3%	9.1%				
前年度の回答数	14	4	0	0	0	18	
前年度回答率	77.8%	22.2%					
回答率の対前年度比	81.8%	122.7%					

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

--

(3) 七沢更生ライトホーム

評価	<評価の目安> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S : 90%以上 A : 70%以上～90%未満 B : 50%以上～70%未満 C : 50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
B	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	27年11月9日～20日に実施した。

[施設としての総合的評価]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、食事、入浴、清掃

実施した調査の配布方法 個別配付、聴き取り 回収数/配布数 49 / 59 = 83.1%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	15	11	9	5	5	45	・食事の味が薄い。 ・清掃が行き届いていない。
回答率	33.3%	24.4%	20.0%	11.1%	11.1%		
前年度の 回答数	14	15	10	5	4	48	
前年度回答率	29.2%	31.3%	20.8%	10.4%	8.3%		
回答率の 対前年度比	114.3%	78.2%	96.0%	106.7%	133.3%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容 挨拶・言葉遣い、身だしなみ、個人の尊重、相談しやすさ、信頼度、迅速・正確さ、専門知識

実施した調査の配布方法 個別配付、聴き取り 回収数/配布数 49 / 59 = 83.1%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	21	12	10	2	2	47	・質問内容に対して別 な答えが返ってくる。 ・連絡の取り合いを もっとスムーズにして ほしい。
回答率	44.7%	25.5%	21.3%	4.3%	4.3%		
前年度の 回答数	21	12	12	4	2	51	
前年度回答率	41.2%	23.5%	23.5%	7.8%	3.9%		
回答率の 対前年度比	108.5%	108.5%	90.4%	54.3%	108.5%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

--

(4) 神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H27. 10. 5～H27. 10. 16に実施した。

[施設としての総合的評価]

質問内容 当院全般について満足度はいかがですか

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 172 / 214 = 80.4%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	58	72	35	7	0	172	・トイレが狭い、使い勝手が悪い。 ・新しい病院ができるので楽しみにしている。使いやす い、信頼度が高い病院になっ てほしい。
回答率	33.7%	41.9%	20.3%	4.1%	0.0%		
前年度の 回答数	47	76	22	3	3	151	
前年度回答率	31.1%	50.3%	14.6%	2.0%	2.0%		
回答率の 対前年度比	108.3%	83.2%	139.7%	204.8%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容 この施設の職員の対応についてどうですか

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 172 / 214 = 80.4%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	94	48	27	2	1	172	・いつもさわやかな対応で入院生活が楽しくできた。手術後のつらさも切り抜けられた。 ・とても優しくわかりやすく説明して頂けるし、質問もしやすい。
回答率	54.7%	27.9%	15.7%	1.2%	0.6%		
前年度の 回答数	74	48	25	3	1	151	
前年度回答率	49.0%	31.8%	16.6%	2.0%	0.7%		
回答率の 対前年度比	111.5%	87.8%	94.8%	58.5%	87.8%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

--

(5) 神奈川県リハビリテーション病院（外来）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	平成28年1月18日～1月22日に実施した。

〔施設としての総合的評価〕

質問内容 この施設を利用してよかったですか

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 439 / 597 = 73.5%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	261	118	51	7	2	439	・病院で働いているすべての スタッフの対応が、障害者に対 しての理解があるのでとても いいと思う。 ・車椅子用の駐車場を増やして ほしい。また、屋根を付けて ほしい。
回答率	59.5%	26.9%	11.6%	1.6%	0.5%		
前年度の 回答数	314	121	51	7	1	494	
前年度回答率	63.6%	24.5%	10.3%	1.4%	0.2%		
回答率の 対前年度比	93.5%	109.7%	112.5%	112.5%	225.1%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

〔参考：職員の対応状況〕

質問内容 この施設の職員の対応についてどうですか

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 439 / 597 = 73.5%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	209	140	82	6	2	439	・親切にさせていただ き、安心して来院する ことができる。
回答率	47.6%	31.9%	18.7%	1.4%	0.5%		
前年度の 回答数	233	158	93	8	2	494	
前年度回答率	47.2%	32.0%	18.8%	1.6%	0.4%		
回答率の 対前年度比	100.9%	99.7%	99.2%	84.4%	112.5%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

〔参考：その他〕

--

(6) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

評価	<評価の目安> 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
C	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	平成27年10月19日から平成27年10月26日にかけて実施した。

[施設としての総合的評価]

質問内容 施設の療養環境、施設表示、安全性及び清潔感など

実施した調査の配布方法 利用者に直接配付 回収数/配布数 56 / 97 = 57.7%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	17	10	24	4	1	56	ベッドの幅が狭く上げ下げが電動でない。
回答率	30.4%	17.9%	42.9%	7.1%	1.8%		
前年度の 回答数	15	13	20	3	2	53	
前年度回答率	28.3%	24.5%	37.7%	5.7%	3.8%		
回答率の 対前年度比	107.3%	72.8%	113.6%	126.2%	47.3%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容 病院職員の対応

実施した調査の配布方法 利用者に直接配付 回収数/配布数 56 / 97 = 57.7%

配布(サンプル)対象

	満足	どちらか といえば 満足	普通	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	22	13	20	1	0	56	職員が皆一生懸命働いており気持ち良かった。
回答率	39.3%	23.2%	35.7%	1.8%			
前年度の 回答数	25	9	18	0	1	53	
前年度回答率	47.2%	17.0%	34.0%		1.9%		
回答率の 対前年度比	83.3%	136.7%	105.2%	皆増	皆減		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

--

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計/支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B (概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマ ナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の内訳			支出	収支差額
前々年度	当初予算	4,270,908	6,284,229	42,712	備考のとおり	10,597,849	10,597,849	0	100.00%
	決算	4,270,908	5,630,117	50,477	〃	9,951,502	10,126,985	-175,483	98.27%
前年度	当初予算	4,292,484	6,267,935	41,121	備考のとおり	10,601,540	10,601,540	0	100.00%
	決算	4,292,484	5,429,688	58,532	〃	9,780,704	9,670,582	110,122	101.14%
27年度	当初予算	4,122,927	5,896,403	42,220	備考のとおり	10,061,550	10,061,550	0	100.00%
	決算	4,122,927	5,129,947	62,701	〃	9,315,575	9,268,303	47,272	100.51%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数			(単位:千円)
27年度 /	前年度 /	前々年度 /	

<備考>	
前々年度/受取利息：(当初) 7,777 (決算) 8,357 雑収入：(当初) 23,122 (決算) 30,148 長期収入：(当初) 2,520 (決算) 1,785 こども園使用料・給食費：(当初) 9,293 (決算) 10,187	
前年度/受取利息配当金収入：(当初) 7,279 (決算) 7,840 その他の収入：(当初) 22,266 (決算) 28,309 長期貸付金回収収入：(当初) 2,520 (決算) 13,383 こども園使用料・給食費収入：(当初) 9,081 (決算) 9,000	
27年度/受取利息配当金収入：(当初) 4,062 (決算) 5,769 その他の収入：(当初) 23,037 (決算) 33,448 その他の事業収入(当初) 0 (決算) 215 固定資産売却収入(当初) 0円 (決算) 1,500 長期貸付金回収収入：(当初) 5,040 (決算) 13,188 こども園使用料・給食費収入：(当初) 10,081 (決算) 8,581	

[参考：県が支出した修繕工事費] ※県が支出する計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額(千円)	工事箇所・内容(金額(千円))
H27.8～H27.10	4,806	神奈川リハ病院エリア第六駐車場アスファルト舗装改修工事 4,806千円
H27.10～H27.12	2,204	神奈川リハ病院エリア第1駐車場車いす使用者駐車区画改修工事 2,204千円
H28.1～H28.3	2,700	神奈川リハ病院エリア屋内訓練棟北側駐車場アスファルト舗装改修工事 2,700千円
H28.1～H28.3	5,325	神奈川リハ病院エリア屋内訓練棟男子トイレ改修工事 監理：594千円 工事：4,731千円
H28.1～H28.3	2,495	神奈川リハ病院エリア新館空調機付帯間接蒸気式加湿器更新工事 2,495千円

(基本協定において県が負担することとしている修繕費等： 100千円以上)

[参考：資本的な収入及び支出等の状況]

	金額(千円)	内容(金額(千円))
収入		
支出		
積立		

8. 苦情・要望等

(1) 七沢学園（児童・成人）

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	来室	3 件	短期利用者のご家族から。以前利用の際に身体拘束をされたと聞いたが実情を説明してほしい。また利用者本人の特性に配慮した就寝環境の設定に配慮可能でしょうか。	身体拘束に関しては事実確認し、虐待防止マニュアルに基づいた支援であったことを再度説明してご理解いただきたい。就寝環境設定に関しては、検討し可能な旨を回答した。
	電話	3 件		
事業内容		件		
		件		
その他	来室	1 件	利用者より、他の特定利用者から居室内の物品を勝手に触ったり、隠したり、部屋の電気を消されたり等意地悪を頻繁に受けるとの訴えがある。	被害を受けた利用者へ面接を実施し、不安を傾聴する。また具体策として鍵のかかる居室に変更し、見守り強化する。他利用者についても意地悪を働く特定利用者も含め、面接可能な利用者へ個別面接を実施し、傾聴と事実確認を行った。
	電サ	1 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	その他	1 件	長期利用者の家族から、利用者が支援員にたたかれたと知っている。支援について確認相談したい。	支援員に対する事実確認の面談を実施し、たたいた事実は無かったことを確認した。この結果をご本人と家族に報告。併せて、今後については、本人の特性理解を職員間で進めつつ、チームで支援していくことを報告。了解を得る。
	来室	1 件		
事業内容		件		
		件		
その他	その他	2 件	主食の形態についてより食べやすいタイプはないかとの相談を受ける。	
	意見箱	3 件		
	電話	2 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3) 七沢更生ライトホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	その他	5 件	PC室の環境を整えて欲しい。使用後きちんとされていない。また無線LANの機種が古いので更新してほしい。	PC室の使用方法については再度確認する。契約は3年前で、使用する周波数帯は3Gであった。現在は4Gが一般的であることから、NTTに確認し、契約内容や今後のプランについて検討する。
		件		
職員対応	来室	2 件	夜間介助の際、口臭（コーヒー）のきつい職員が居る。眠気予防に飲んでいると思うので飲むなどは言わないが気を付けてほしい。	口臭については嫌な人もいるので気を付けるように次の会議で職員へ伝える。
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	その他	13 件	食事のリクエスト：受託利用の方に付いていたメニューが自分にはついていなかった。メニューは日本の食文化を考慮してほしい。麺類を増やしてほしい。リクエストについては施設懇談会で以前も栄養科の職員へ伝えている。	担当職員より：ご本人の食事は通常メニューではない。また毎月季節に合わせた献立は組まれている。麺類も7のつく日に提供しているという意見があった。リクエストがあったことについては栄養科担当に伝えるとのこと。
	来室	5 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	来室	2 件	患者本人から「テレビの映りが悪い。音声に「プー」という音が入り聴きづらい。早急にテレビを変えて欲しい。」と要望があった。	早急にテレビ交換の対応をしたが、現行のアンテナは旧式なので、新病院棟移転後は、新しいアンテナへの切換えを予定している。
	その他	2 件		
	意見書	15 件		
職員対応	意見書	18 件	患者のご家族から、「装具外来について、医事課窓口で対応した職員の態度が悪い。こちらのお話をきちんと聞かない。教育が悪いと思う。」と苦情があった。	装具外来については、より良い運用方法を検討していく。また、窓口の対応については委託業者の指導を徹底するとともにスタッフ全員に周知し接遇向上に努める。
	その他	2 件		
	電話	2 件		
	来室	4 件		
事業内容	意見書	1 件	患者のご家族から、「院外薬局になりすごく不便である。病院近くに薬局もなく不親切。病院で医師が処方した薬と同じ内容の薬が院外薬局にないことがある。」と苦情があった。	院外薬局を利用する場合、①医療福祉相談室がご希望の調剤薬局に薬の在庫状況や取り寄せ状況などを確認すること、②原則院外処方だが個別事由があれば医師にご相談いただくこと、③後発薬品の薬効等の不安も相談いただくこと、を説明した。
		件		
その他	意見書	27 件	患者本人から「外来が予約時間通りに呼ばれず、長時間待たされることが多い。また、会計の窓口の呼び出しは声が小さいので、マイクを使うといいと思う。」と苦情があった。	何度か呼んで応答がなかった場合等、必要に応じてマイクを使用している。また、リニューアルする新病院では、番号表示システムの導入を検討していることを説明した。
	電話	1 件		
	来室	5 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(5) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	来室	1 件	患者本人から「7月10日以降、暑い日が続き夜間も暑くて眠れない。冷房時間を延長してほしい。」と要望があった。	現在、冷房時間は8時～17時となっているので、B館は7時～20時まで冷房時間を延長した。また、状況により当直科長の判断で22時まで延長を可能とし、今後、22時までの延長対応は、患者の訴えや室温など見て必要がある際に適宜対応することとした。
		件		
職員対応	電話	6 件	現在、右下肢に装具をつけて歩行訓練している。退院時には装具なしで帰りたいと考えていたが装具を作る話が出た。臨時担当者は装具なしで帰れるのではないかとっており主担当者と意見が違う。自分に関わった他の担当者の意見も聞き最終的な方向性を出してほしい	理学療法科科長・担当者へ相談者からの意向を伝えた。①担当者として臨時担当者間で情報交換を十分に行い、患者が混乱しないように対応していく②主治医・リハ担当者と情報交換を行い、患者への説明が出来るように調整を行う。③患者へはあらかじめ場の設定を行い説明を行っていく。
	意見箱	2 件		
	来室	2 件		
事業内容		件		
その他	その他	7 件	コインランドリーは原則一人1台の使用と掲示されているが、同時に2台使用している人がおり順番待ちのことも多い。掲示物も色あせているので分かりやすいように工夫してほしい。	コインランドリー内に規格の違う掲示物が点在し、色あせたものもあった。 このためコインランドリー管理会社へ、分かりやすい掲示物に工夫するよう依頼し更新した。
	電話	2 件		
	来室	4 件		
	意見箱	8 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	事故等の概要	原因・問題点	①指定管理者の対応状況(再発防止策・業務改善策等) ②県の対応状況(随時モニタリング・改善勧告の実施等) ③責任の所在及び現在の状況
10月31日	27年10月31日16時30分頃、七沢学園生活支援員が利用者に対して入浴指導を行う過程で被服への拘りが強い利用者が着替えを持参してこなかったことに対し、怒鳴る・叩くなどの虐待に相当する不適切な行為を行った。	①拘りが強い利用者への専門的支援が欠如 ②職員間の課題の共有化と統一した対応の準備不足 ③管理監督者の指導不足	①虐待に相当する行為を行った職員に対し、平成28年1月に懲戒処分を実施した。 また、法人としての組織横断的な取り組みを組み込んだ虐待防止改善計画を策定し再発防止に取り組んでいる。 ②・平成28年12月22日付け随時モニタリングの実施通知にて、利用者虐待事案に係る報告書の提出を求めた。 ・平成28年1月28日午前9時30分からモニタリングを実施 ・平成28年1月28日午前9時30分から監査及び臨時指導監査を実施 ・平成28年2月15日付け随時モニタリングの実施結果及び改善勧告にて、指定管理業務の改善計画書を作成を求めた。 ・平成28年2月22日付け監査の実施結果について(勧告)にて、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のための必要な取り組みを行うこと、管理者による従業者の管理及び施設の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うとともに、従業者に施設運営に関する基準を遵守させるための必要な指揮命令を行うことを勧告した。 ・平成28年2月22日付け臨時指導監査の実施について(通知)にて、虐待防止に向けた措置を講じるとともに原因の究明と再発防止に向けた組織的な取り組みを行うこと、虐待防止チェックリスト等を活用して全ての従業者による自己点検を行い、その結果の集計・分析をして報告すること、人権の擁護、虐待防止等のため責任者の設置その他必要な体制の整備を行うよう通知があった。 ・平成28年3月31日付けで神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理業務に係る改善計画の承認について通知した。 ③神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理業務に係る改善計画書の提出を行い、策定した虐待防止改善計画に沿って再発防止に向けて取り組んでいる。

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。